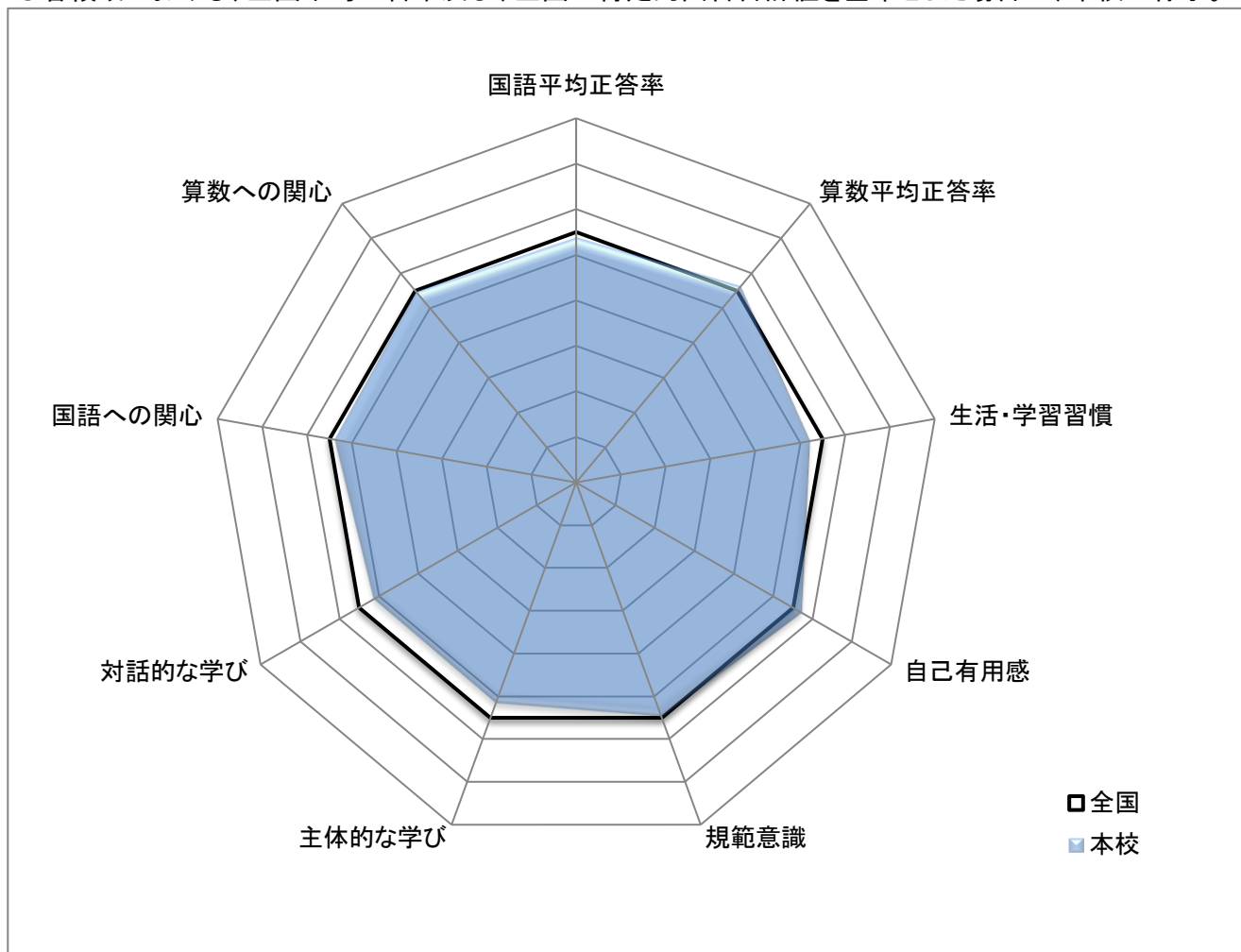


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

・国語は、観点別にみると、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」は全国平均を下回っているが、「言語についての知識・理解・技能」は全国平均を上回っている。
 ・算数は3観点「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」で、全国平均を上回っている。
 ・数の領域では「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」全てにおいて、全国平均を上回っている。

《授業改善のポイント》

・国語については、朝読書を定期的に行っているが、読書をさらに充実させていく。読書科や他教科とも関連付けながら、物語、説明文、新聞、コラム等、様々な文章を読む機会をより多く設定する。
 ・算数については小数や分数等の計算の復習を繰り返し行ったり、ベーシックドリルを活用したりして、基礎基本の確実な定着を目指す。
 ・学習形態を工夫し、ペアやグループ等での話し合い活動を行い、全体で発表するなど様々な教科において言語活動を充実させていく。
 ・児童の関心・意欲を引き出すような導入を工夫して行う。

《チャートの特徴》

- ・国語は、関心が全国平均並みだが、正答率は全国平均を少し下回っている。
- ・算数は、関心が全国平均並みだが、正答率は全国平均を少し上回っている。
- ・自己有用感、全国平均を上回っている。
- ・規範意識は、全国平均並みである。
- ・生活・学習習慣は、全国平均を下回っている。学習習慣の定着が今後の課題である。
- ・主体的な学びや対話的な学びは全国平均を下回っている。教員への研修を含め、今後の課題である。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・ラインズeライブラリアドバンス「家庭学習サービス」を実施し、ドリルの学習を継続させることで家庭学習の習慣化を図る。
- ・個人面談の機会に個々の児童の躓きを保護者に伝え、家庭との連携を一層図る。